

事業プロフィール I

特養・短期

1 : ()

2 (1) 運営主体 (法人名等) :

(2) 設置主体 :

3 事業所所在地 : 〒

4 事業所の長の氏名 (施設長等) :

5 連絡先

T e l		F a x	
Eメール		ホームページ	

6 同一運営主体が同じ敷地内で連携して実施している主な福祉・医療サービスを利用者数からみて上位5つ以内 (例. 特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスなど、評価対象事業を含む。)

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

7 定員および現在の利用者

※内訳は別紙のとおり

8 職員の状況

(1) 職員数

区 分	計	男性	女性
常勤職員数			
非常勤職員数			
計			

(2) 専門職員の人数

専門職の名称	人数	専門職の名称	人数	専門職の名称	人数

(3) 非常勤職員の勤務形態と業務内容

*職員種別は、パート、アルバイト、派遣、契約等、施設で通常使用している呼称でご記入ください。

職員種別	人数	勤務形態 (勤務時間、シフト)	業務内容

全ての勤務形態・業務内容を記入する必要はありません

(4) 前年度採用・退職の状況

	計	常勤	非常勤
採用			
退職			

(5) 常勤職員の平均年齢 歳

(6) 常勤職員の平均在職年数 (現在の事業所での在職年数とする)

(7) 直接支援に携わっている職員 (非常勤は常勤換算) 1人当たりの利用者数 人
(計算式: 定員 ÷ 直接支援に携わっている職員数)

9 実習生の受け入れ状況

前年度の実習生受け入れ人数 人

【内訳】

実習の種類

受け入れ人数

10 ボランティアの受け入れ状況

前年度のボランティア受け入れ人数 人

【内訳】

ボランティアの内容

受け入れ人数

11 平面図等施設の状況がわかるものを添付

事業プロフィールⅠ（７ 定員及び現在の利用者 内訳）
特別養護老人ホーム・特定施設入居者生活介護・老人保健施設 版

7 定員及び現在の利用者（ 年 月 現在）

（１） 定員 人

（２） 現在の利用者

		計	男性	女性
①	利用者数			
②	平均年齢			
③	平均要介護度			
④	平均入所期間	年 月		

要介護度の内訳	区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	障害日常生活自立度の 障害高齢者の	区分	障害なし	J	A
	人数					人数			
	区分	要介護 4	要介護 5	計		区分	B	C	計
	人数					人数			

認知症日常生活自立度の 認知症高齢者の	区分	認知症なし	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a
	人数					
	区分	Ⅲ b	Ⅳ	M		計
	人数					

その他	内 訳		人数
	車椅子を常時使用		
	排泄介助を要する人		
	食堂で食事することが可能な人		
	趣味の活動に参加している人		

（３） 「利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合」として、何らかの拘束を行う場合の体制を記載して下さい。また、最近それらを行った場合は、その時の状況も記載して下さい。（または、わかるものを添付して下さい）

.....

.....

（４） 前年度の新規利用者数 人

（５） 前年度のサービス利用終了者数（短期入院で再入所した者は除く）

退所の	内 訳		人数
	福祉施設・保健施設への入所		
	医療機関への入院		

の内訳	死亡	
	他事業所の利用	
	その他	

事業プロフィールⅠ（７ 定員及び現在の利用者 内訳）
通所介護・短期入所生活介護 版

7 定員及び現在の利用者（ 年 月 現在）

（１） 定員 人

（２） 現在の利用者

		計	男性	女性
①	利用登録者数			
②	平均年齢			
③	平均要介護度			
④	平均利用期間	年 月		

要介護度の内訳	区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	日常生活自立度の 障害高齢者の自立度	区分	障害なし	J	A
	人数					人数			
	区分	要介護 4	要介護 5	計		区分	B	C	計
	人数					人数			

日常生活自立度の 認知症高齢者の自立度	区分	認知症なし	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a
	人数					
	区分	Ⅲ b	Ⅳ	M		計
	人数					

その他	内 訳		人数
	車椅子を常時使用		
	排泄介助を要する人		
	食堂で食事することが可能な人		
	趣味の活動に参加している人		

（３） 「利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合」として、何らかの拘束を行う場合の体制を記載して下さい。また、最近それらを行った場合は、その時の状況も記載して下さい。（または、わかるものを添付して下さい）

.....

.....

（４） 前年度の新規利用者数 人

（５） 前年度のサービス利用終了者数（短期入院で再入所した者は除く）

退所の	内 訳		人数
	福祉施設・保健施設への入所		
	医療機関への入院		

の内訳	死亡	
	他事業所の利用	
	その他	

事業プロフィールⅡ

1 理念・ビジョン、基本方針など（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）

事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン、基本方針など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）

1) 利用者一人ひとりの尊厳を守り、その人らしい生活を最期まで支える介護を実践する

2) 利用者・ご家族と共に歩み、信頼される施設として地域に根ざした運営を行う

3) 多職種が連携し、チームとして質の高いケアを継続的に追求する

4) 職員が安心して働き続けられる職場環境を整え、専門性の向上を支援する

5) 地域の高齢者福祉の拠点として、社会的責任を果たす施設運営を行う

※ 理念・ビジョン、基本方針などがわかるものを添付して下さい。

2 サービス提供の考え方について記述（関連 カテゴリー6 サービス提供のプロセス）

日々の業務の考え方、利用者ニーズに合わせた事業者独自の取り組み、利用者や家族との関係、地域との関係を含む

介護の基本は「その人らしい生活を最期まで支えること」と考えている。利用者の意思・希望・生活歴を尊重した個別ケアを多職種が連携して実践することがサービスの中心である。
特別養護老人ホームとしては、看取りを含む終末期のケアにも積極的に取り組んでおり、利用者・ご家族が安心して最期を迎えられる環境づくりを大切にしている。
ショートステイについては、在宅生活の継続支援と家族介護者のレスパイトを主な目的とし、利用中も在宅での生活スタイルを最大限維持した支援を行っている。
地域とのつながりを重視し、認知症サポーター養成講座・地域ケア会議への参加など、地域の高齢者支援拠点としての役割を果たすことを運営方針の柱としている。

3 期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）

（1）職員に求めている人材像や役割

- ・利用者の尊厳を守り、その人の生活歴・価値観・意思を尊重した個別ケアができる介護福祉専門職
- ・多職種と協力し、チームケアを実践できる協働者
- ・認知症・看取り・身体拘束禁止等の専門的なケアスキルを継続的に高める向上心のある人材
- ・利用者・ご家族との信頼関係を大切に、誠実に向き合える人間力を持つ職員

※ 事業所のキャリアパス（事業所が求める職責または職務内容に応じた人材像）があれば添付して下さい。

（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）

- ・「この方の人生の最期に関わる仕事」という使命感を常に持ってほしい
- ・利用者の「できることはできる」を引き出す自立支援の姿勢を大切にしてほしい
- ・困ったことはチームに相談し、一人で抱え込まない職場文化を共につくってほしい
- ・専門資格の取得・研修への積極的な参加を通じて、介護の専門性を高め続けてほしい

4 現在のサービス提供能力と利用者数(関連 カテゴリー6 サービス提供のプロセス)

(以下のどれかに○をつける)

- 1) サービスを希望しながら待っている人(事業所に登録している待機者)がかなりいる
- 2) ほぼサービス提供能力に見合った利用者数で、待っている人はほとんどいない
(ほぼ定員を満たしている)
- 3) サービス提供能力に余力があり、希望者があれば受け入れたい
- 4) その他()

5 3年後の見通し(関連 カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行)

(以下、「契約による利用」、「措置など契約以外による利用」のどちらかを選んだうえで、一つに○をつける)

〔契約による利用〕

- 1) 利用者数の増加を見込んでサービス提供能力を拡大する計画がある
- 2) サービス提供能力を拡大する計画はないが、ほぼ現在のサービス提供能力に見合う利用者数は維持できると思う
- 3) 現在の利用者数を維持するのは経営改善・サービス改善をしていかないとかなり難しい情勢になっているのではないと思う
- 4) その他()

〔措置など契約以外による利用〕

- 1) 施設規模の拡大または新たなサービス提供を行う計画がある
- 2) 現在の施設規模、サービス提供能力を維持する方向で考えている
- 3) 現在のサービス提供能力を維持するのは、経営改善・サービス改善をしていかないとかなり難しい情勢になっているのではないと思う
- 4) その他()

6 評価対象のサービス事業に関して事業者として力を入れて取り組んでいる点を、人的サービス面と設備面に分けて、重要な順に各3つ以内で記述(関連 カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行)

〈人的サービス面〉

- 1) 多職種連携によるケアカンファレンスの定例化と、全利用者への個別ケアプランの徹底的な実践

- 2) 看取りケア体制の整備(方針の文書化・専門研修の実施・グリーフケアの導入)
- 3) 介護職員の専門性向上(排泄ケア・認知症ケア・口腔ケア等の専門研修の継続的实施)

〈設備・環境面〉

- 1) ユニットケアを実現する小規模居室・プライベート空間の確保と、なじみの環境づくりへの配慮
- 2) 転倒・誤嚥・感染症対応のための安全管理設備(センサーマット・嚥下訓練機器等)の整備
- 3) 看取りケア・緩和ケアに対応できる個室・家族宿泊スペースの整備

7 当該事業の開始時から現在までの重要な変遷（制度改正に基づくもの含む）

1) 開始時期 年 月

2) 重要な変遷

開設以来、地域の高齢者の生活を支える施設として運営してきた。介護保険制度の施行（ 2000年）・ユニットケア推進・身体拘束禁止の制度化等に対応し、ケアの個別化を進めてきた。近年はコロナ禍を経た面会制限の緩和・感染症対応 BCPの整備・電子記録システムの導入、ならびに看取りケアへの積極的な対応強化を進めている。

8 経営に影響を与えている事業環境の変化を記述（制度改正を含む）（関連 カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行）

- ①2024年介護報酬改定(処遇改善加算の一本化・LIFE活用の推進)への対応が急務となっている。
- ②介護人材不足・離職率の高さが業界全体の課題であり、採用・定着対策が経営上の最重要課題となっている。
- ③要介護度の重度化・医療依存度の高い利用者の増加により、医療との連携体制の強化が求められている。
- ④地域包括ケアシステムの深化に伴い、在宅復帰支援・ショートステイの在宅支援機能の強化が求められている。

9 評価対象としているサービス事業を維持・向上させていくためにこれから何をしていかなければならないかについて、重要な順に3つ以内で記述（関連 カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行、カテゴリー7 事業所の重要課題に対する組織的な活動）

- 1) 介護職員の処遇改善・働き方改革(夜勤体制の見直し・ICT活用による業務効率化)の継続的推進
- 2) LIFE(科学的介護情報システム)の本格活用によるデータに基づくケアの質向上
- 3) 医療機関・居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携強化による地域包括ケアの推進

10 福利厚生（公的な福利厚生制度への加入・職員の交流会、職員の余暇活動、日常生活への支援など）への取組状況、及び職員の利用状況について記述（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）

法人の共済制度（慶弔見舞金・健保組合）に加入。年 1 回の職員交流行事・誕生日祝い等を実施している。育児休業・介護休業の取得実績あり、夜勤専従の選択も可能。ストレスチェック（年 1 回）と産業医・EAP相談窓口を設け、職員のメンタルヘルスをサポートしている。

11 事業所の権限

事業所に最終的な決定権があるものに全て○をつけてください

- | | | |
|---------------------|-------------|------------------|
| 1 理念・ビジョン、基本方針などの策定 | 2 中・長期計画の策定 | 3 予算の編成 |
| 4 職員の採用 | 5 職員の異動・配置 | 6 職員の育成（研修）計画の策定 |

12 評価を実施するにあたり、評価機関に知っていて欲しいこと（経営層が考えていること、利用者の状況、職員の状況など）を自由にご記入ください

当施設は重度の要介護者を中心に、尊厳ある個別ケアと看取りを含む終末期ケアに力を入れてきた。介護人材不足という厳しい環境の中で、職員の定着と専門性の向上を最重要課題として取り組んでいる。第三者評価を通じて、組織として気づいていない強みと課題を客観的に指摘いただけることを期待しており、評価結果を次年度の事業改善・職員の動機付けに活かしたいと考えている。